

2020年8月22～24日アポイ調査
+α

22日

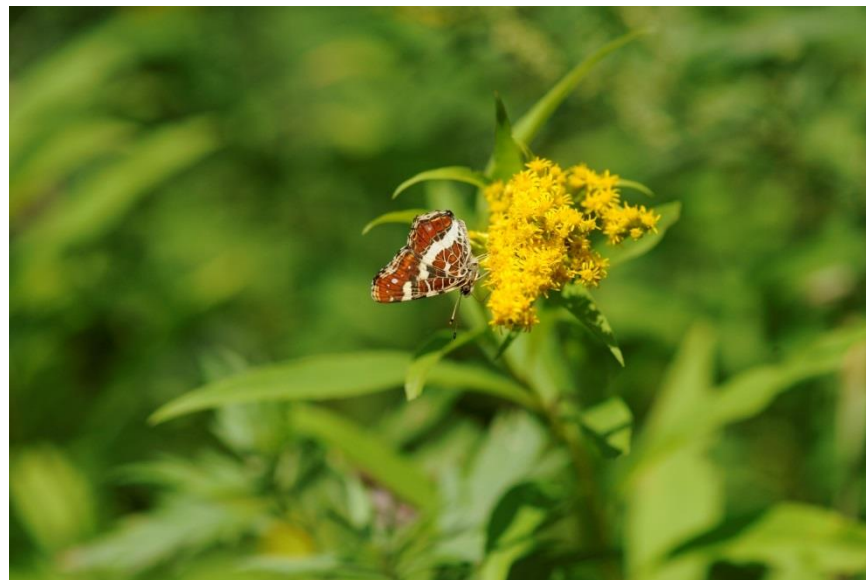
A先生と教育大旭川のK君の何時ものトリオでアポイに行く。様似入りする途中、前回同様札内川のジョウザンシジミポイントと忠類のチャマポイントに寄ってみる。

① 札内川河畔にて



土手沿いの道を入ってみると、車窓からアカマの飛翔が見えた。早速車を止めて観察へ。

きれいな夏型がセイタカアワダチソウなどの花にたくさん集まっていた。



発生地 of イラクサ群落を探すと、ほどなく発見。水路の脇のエゾイラクサが食われてまくっていた。その食いかすのようなイラクサを見ると卵柱が！これはいいものを発見した。A先生も発見。飼育もしてみようとお持ち帰りへ。



持ち帰って1本ずつの卵の数を数えてみると、 $12 + 16 + 17 + 18 = 63$ 個でした。これだけ産むのには結構時間がかかるのでしょね。産卵シーンは大学時代に一度見ただけ。少し♀を追ってみるが産卵はしなかった。



堤防沿いの荒れ地のジョウザンシジミ発生地に行ってみる。気温が上がってきた暑い。ジャノメチョウが草むらにたくさん飛んでいる。じっくり待てば産卵が見られそうだが……。まずはベンケイソウのほうだ。この地の食草はオオベンケイソウという栽培種が野生化したもの。きれいな花が咲いている。卵のカラがたくさんついている。



直立した株の葉が切り落とされているのは幼虫の仕業。その下の葉をさがせば見つかるはず。ところがほとんど食われているのが多く、ありもない。すでに蛹化したものも多いようだ。二人で7頭ほど見つける。付きまとうアリはクロヤマアリか？

この土手は、完本制作の時に芝田さんからチャマダラセセリがいるよと芝田氏から教えられた場所。土手のきイチゴ類(Rubus属・たぶんナワシロイチゴ)を見てみるとほどなく巣を発見。



中を開けてみると・・・終齢になったばかりの幼虫の様だ。これは忠類でも期待できるかな。今回は蛹ネットをかけて蛹化位置を観察する予定なのだ。

②忠類ポイントにて

帯広自動車道を南下し忠類で降りて近くの丘陵地へ。ここは以前チャマの他カラタカなど観察した好ポイント。車を止めるとオオハンゴンソウに蝶が集まっている。K君にヒョウモン類をとりあえずネットインしウラギンヒョウモンがいたら確保してと伝え。チャマの巣を探しにミツバツチグリ、キジムシロの荒れ地に足を踏み入れる。



だがしかし、全然見つからない。終齢の巣らしきものはいくつかあるが……。ならばカラフトタカネキマダラセセリの巣をさがそうと、ノガリヤスの群落で巣を探す。がこれも敗退。ゴマシジミがちらちら飛んでいるのをA先生1, 2頭ネットインするだけ。ヒョウモン類もミドリヒ、ウラギンスジ、生き残りのキタヒョウモンくらい。ここはあきらめ天馬街道ぬけて日高に移動することに。移動途中、チョウ類保全協会の中村さんから電話が入る。今日の晩飯、明日の作業の相談をする。

W御大ラジオ出演の話

いつもお世話になっているW御大から今日のNHKのラジオ「石丸謙二郎の山カフェ」に出演するというので、車で電波キャッチ。層雲峡からの電話出演で高山蝶の話を30分にわたってお話になっていました。田渕行男さんの本との出会い、ウスバキの蛹発見の話など楽しく聞きながら、狩勝峠を走っておりました。お疲れ様で～す。

23日

前日はいつものようにアポイ支援センターでシャブシャブで夕食。中村さんの息子さんも参加。富良野永盛農園提供の新じゃが・枝豆がビールの友。ネットの処理について確認する。

朝7時半
登山口



途中のササの葉のコチャバネの巣を見ることで小休止しながらひーひー登って行く。この巣は2枚の葉を重ねて作った終齢の巣。シカにさんざん食われて葉が小さくなっているからかも。





ザリガニの棲む沢

避難小屋でみんなと合流。ここまで1時間15分。
汗を拭きながら安藤組を見送る。馬の背までの
急登をつめると先行組はもう作業を進めていた。



幼虫ネットは全部で100。一つずつ開けてみると、半分くらいは蛹になっていた！予想より早い成長だった。それらはネットについたまま枯葉でカバーしてそのままハイマツの下に置き上から石を被せていくことに。

この下に蛹を置いた



葉を綴った巣の中で蛹化したもの。

ネットの中に枯れ葉をあらかじめ入れておいたものはその枯葉を綴って中で蛹化。それ以外はネットのスミにくるまるように糸を吐いて蛹化。2個体は葉の巣の中でそのまま蛹化していた。

7月のネット掛けで3齢以上はほとんど蛹化。2齢だったものが終齢(5齢)になっていた。巣を出て蛹化のためのワンダリングをしているものもいた(→)。蛹化前には体色が緑色がうすくなり褐色味を帯びてくる。

途中死亡は数個体、ネットの中に見つからなかったものも数個体いたが蛹化時に脱出した可能性もある。8割以上は蛹化までいけそうな感じでした。



これらの幼虫たちは、チュールで作った蛹ネットでそのまま覆うことにした。(次頁)



蛹ネット(60cm四方)



ベニヒカゲの♀チシマセンブリで吸蜜

作業は100個体もあり、それぞれの成長度合いなどを記録しながら行うので結構な時間がかかる。飛んでいるベニヒカゲを観察する余裕はなし。教育大のトレイルカメラも4台回収し、設置しなおす。トレイルの幼虫たちは全部途中脱落していた。脱落の原因が記録されていると、それなりに意味のあるのだが。
とにかく幼虫ネットは効果絶大ということが分かった。詳しくは委員会報告でまとめます。

24日

翌日も好天。富良野～旭川に帰る途中に、幌満峡の林道と厚真に寄ってみることにする。幌満の林道では採卵用のベニヒカゲの♀を確保。その他はゴマシジミが比較的新鮮なものがいた。そのあと日高から胆振に向かう。

厚真キマモドポイントにて

目的は我々の宿敵キマダラモドキの産卵行動の観察。現地につき疎林に足を踏み入れると♀がたくさん出てくる。2時間以上観察するが、下草に止まってばかりで産卵の様子は見せない。昼近くなると気温も上昇。不活発になってくる。♀の腹は膨らんでいるものもあるが、産卵を終わっているような個体もいる。とりあえず採卵用に5♀お持ち帰りに。



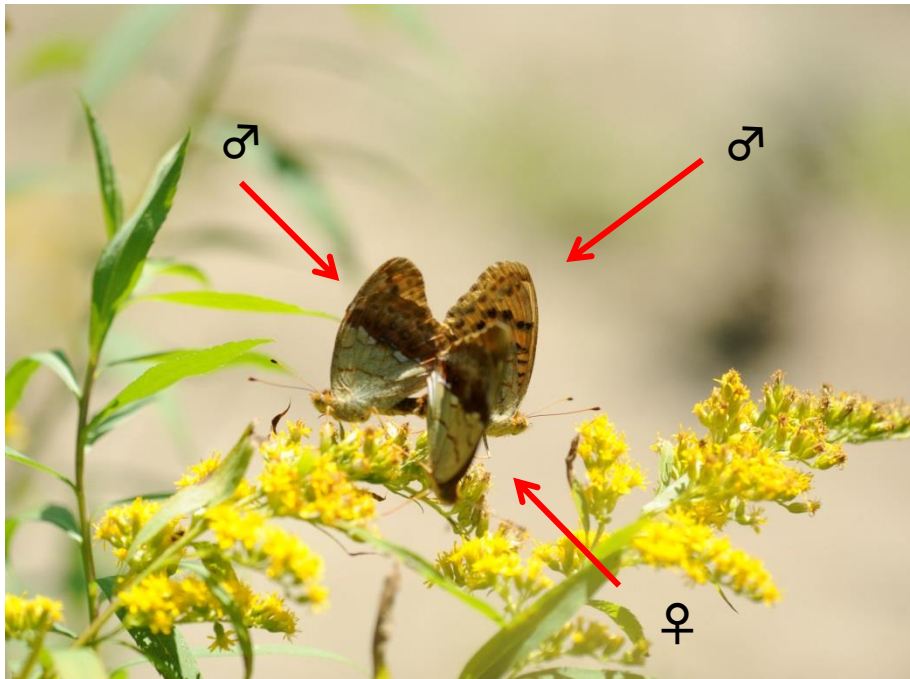
その他観察できたものとしては、ゴイシシジミ。疎林の斜面、や周辺部のササ群落にたくさん飛んでいた。吸汁・産卵行動を動画撮影。産卵はあまりアブラムシにやられていないきれいな葉に産み付ける傾向がある。卵も撮影。幼虫はまだいなかった。今後も継続して観察できそうだ。



あと、辻氏も見ているキマダラセセリらしき
巣を見つけ、食草も含め確認のためお持
ち帰り。

A先生がウラギンスジのすごい交尾がみれ
ますよと呼んでくれた。行ってみると、なん
と♀に2頭の♂ががっちりくっついてい
る。動かしても全然離れない。交尾器がど
のように噛み合わさっているのだろう？と
にかく異常な交尾を見ることができました。

セセリの巣(食草はカモジグサ?)





あとはキマモドが吸汁するミズナラの木にメスグロヒがやってきて産卵していくのを見たくらいでここは終了。

6月にクモガタヒョウモンの♂がたくさんいた大沼野営場近くの林縁に行ってみるが、まだ夏休みなのかクモガタはいなかった。

ということでした

T, Nagamori